

奄 建 土 第 2 0 1 号

平成 2 0 年 1 0 月 1 7 日

国土交通省道路局長 殿

奄美市長 平田 隆義



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 2 0 年 9 月 1 9 日付け国道企第 3 7 号で依頼のあった上記の件について、
別紙の通り回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

鹿児島県奄美市

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

本市は外海離島に位置しており、電車などの代替交通機関がなく自動車が唯一の陸上交通手段ですが、幹線道路には隘路区間が残されており、活力ある地域を創造するうえで隘路区間を解消し道路網を形成することが重要な課題となっております。また、本市の位置する奄美大島は台風常襲地帯なうえ地形が急峻なことから、台風や大雨のたびに法面の崩壊等により幹線道路の交通が途絶しております。

このような現状から、特に港湾や空港などの物流拠点施設を結ぶ幹線道路の整備、観光客を誘致し交流人口を増加させるため観光ルートとなっている道路の整備、災害に強い道路の整備、幹線道路を補完し集落間を結ぶ生活道路の整備などが喫緊の課題となっており、またこれから高齢化社会を向かえるにあたり安全安心な歩行空間の整備や、これまで整備した橋梁などの社会資本を適切に維持管理・更新し、長寿命化を図ることなども重要であると考えております。

今後、整備の必要性について十分峻別を行い、緊急性などを考慮したうえで道路の整備を進めていきたいと考えておりますが、昨今の地方財政は極めて厳しく、地方の単独事業でこれらの道路を整備するのは困難な状況となっており、地域活性化のために必要な地方の道路については、これまで同様補助事業により整備できるよう要望いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

様式 ②

鹿児島県奄美市

○現状

本市は外海離島に位置し、自動車が唯一の陸上交通機関となっている。中心市街地の国・県道においては朝夕のラッシュ時に慢性的な交通渋滞を引き起こしている箇所がある。

また本市は台風常襲地帯で急峻な地形が多く、法面崩壊等による交通途絶がたびたび発生している。

○課題

地域活性化のうえで港や空港などの物流拠点を結ぶ国・県道の隘路箇所の整備や、集落間を連絡する生活道路の整備が喫緊の課題となっている。また、中心市街地の慢性的な渋滞解消を図り、災害・事故時に備えるために国・県道のバイパスを整備し道路の複線化を図る必要がある。

今後、道路改築や災害対策を計画的に実施し、災害に強い道造りが必要となっている。

②-2 地域の目指すべき将来像

- ・港湾や空港などの物流拠点をつなぐ国・県道の道路交通網を整備し、物流・人流の増加による地域の活性化を図りたい。
- ・本市は亜熱帯特有の豊かな自然が数多く残っており、現在世界自然遺産登録や日本風景街道の登録に向けて取り組んでおり、観光ルートとなっている国・県道の道路網を優先的に整備し、観光による地域の活性化を目指していきたい。
- ・市街地の国・県道では慢性的な交通渋滞が発生しており、バイパスの整備により渋滞を解消したい。
- ・高齢化社会を向かえ、既設歩道のバリアフリー化を進めるとともに、集落間をつなぐ幹線道路の歩道整備を行ない安全安心な歩行空間を確保したい。
- ・集落間や公共施設をつなぐ生活道路を整備し、隘路区間を解消したい。
- ・老朽化した橋梁について適切な維持管理や更新を行い、長寿命化を図っていきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

鹿児島県奄美市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	国道58号の改築及びバイパスの整備。	国道58号は大島本島を南北に結ぶ幹線道路で、この整備により物流や観光客の増加が期待される。また、バイパスの整備により、市街地の慢性的な渋滞が解消され、新たな時間価値が生み出される。国道58号の整備により、地域活力の向上を図っていききたい。	渋滞緩和によるCO2 排出量の削減が図られる。
・高齢化社会へ対応した歩道網の整備	県道名瀬・瀬戸内線の市街地における歩道のバリアフリー化。	市街地の国道については歩道のバリアフリー化が概成している。県道の歩道のバリアフリー化により、安全安心な歩行空間網を整備し、高齢者の安全を確保したい。あわせて通学の安全を図りたい。	
・集落間や公共公益施設を結ぶ生活道路の整備	市道赤木名・笠利線の整備。	集落と総合支所などを結ぶ生活道路を整備し、隘路を解消する。通学路にもなっており、国県道と一体となった歩道網を整備する。	